

4. 連携・連帯でつくるまちづくり

麻生キッチンりあんの居場所づくり

地域コーディネーター かどまーる代表 喜多 洋子

麻生キッチンりあんは、麻生商店街振興組合が藤女子大学隈元ゼミ、NPO法人カコタムと連携して生まれた、地域の交流を促し、地域を元気にするコミュニティカフェです。2012年の「商店街活性化学生アイデアコンテスト」で準グランプリになった、ひとり親家庭のお子さんの学習支援と食支援を中心に、地域の方にもバランスのとれた食事を提供するという学生さんのアイデアが実現されたお店です。

2013年8月に40年続いた電気店の空き店舗を活用して始まったお店（藤麻人（とまんと））が、地域の様々な団体、人とつながり、2014年から、店名を「麻生キッチンりあん」に変更しました。日替わりシェフという方式で、プロの料理人ではない地域の住民や団体が、日替わりでランチなどを提供しています。また、地域の方が講師になる「まちの教室」やお酒を飲みながら様々な職種の方のお仕事の話をお聴く「お仕事Bar」なども開催しています。

2016年3月には、障がい者就労サポートセンターNPO法人ぱすとららの協力を得て、イオン向いのひまわり薬局さん跡に移転し、5月からは、地域の方が地域のお子さんなどに夕ご飯を提供する、「子ども食堂りあん」の運営も始めました。

食支援と学習支援

今、新聞やテレビで報道されている子ども食堂ですが、札幌で、いち早く困難な子どもたちの食支援を行ったのは、藤女子大学隈元ゼミの学生たちだと思います。子ども食堂というネーミングではなかったのですが、ひとり親家庭の子どもたちに栄養バランスのとれた食事を提供するという取組は、まさしく、子ども食堂の原点です。2013年に学習支援と食支援を行うという提案を聞いたとき、北区が、白石区、東区に次いでひとり親家庭

の世帯が多いということに驚きました。そして、「教育格差」ではなく、「学びの機会格差を解決する」NPO（カコタム）があって、そのNPOとの連携を深めている隈元先生との出会いは、とても新鮮でした。「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が2014年1月に施行される前から、食支援や学習支援に取り組んでいたのは、先進的だったのだとあらためて思います。



みんなでごはん

ひとり親家庭のお子さんだけに限定された食支援でなく、地域の人たちみんなでお子さんを見守る子ども食堂ができないかと模索し始めたのは、ちょうど、子ども食堂が全国に広がってきたころです。札幌でもにじいろ子ども食堂が豊平区にできたころ、東京大田区の「だんだんこども食堂」や川崎市の「子ども夢パーク」を見学してお話を聞いてきました。

子ども食堂をはじめるにあたり、新聞の折り込みにちらしを入れたりして、ボランティアさんや協賛金、食材の提供をお願いしました。ボランティアさんは、高校生や外国の方もボランティアとして手伝ってくれました。みなさん、やりがいと責任をもって取り組んでくれています。調理スタッフの方たちは、毎回、メニュー会議を開き、メニューを決め、分担を決めています。調理スタッフの方たちのお料理がとてもおいしく、心のこも

ったお料理を提供していています。また、調理する方たちが楽しそうに調理し、お子さんたちや親ごさんたちにありがとうと言われることで、元気になっていく姿をみていると、子ども食堂をはじめて本当によかったなと思います。子どもが元気になることは、まず大人が元気になることなんだ！と思います。子ども食堂を利用して下さる方は、大人と子ども合わせて、毎回20人～50人くらいです。みんなで食事をするのが、こんなに幸せなことなんだと、楽しそうに食べている地域の方や親ごさん、子どもたちをみていて、毎回心が温かくなります。第3金曜日の18時から、みんなでごはん食べませんか？大人500円、高校生以下100円です。

支えあうしくみ

介護をしている方が話をして、みんなで聞きあうことで、少しでも肩の荷を降ろしてほしいとの思いで、「介護者のつどい」を地域第2包括支援センターの協力ではじめました。奥に畳のコーナーがあり、そこで介護している方同士だからこそわかる気持ちを聴きあっています。包括支援センターの方がいることで、ちょっとした疑問にも応えていただき、心強いです。その集まりの中で、地域にお互いさまの気持ちが育まれ、支え合う関係ができたらいねと「ご近所の底力」という地域包括ケアを考える会が生まれました。麻生に住んでいる方が、行政と町内会、NPOと手を携えて、孤立している子育て中の方や高齢者、障がいのある方を見守っていきけるようしくみづくりをすすめて行きたいです。

また、札幌市生活就労支援センターステップさんとも連携して、月1回、しごと・生活困りごと相談も受けています。大通りにあるステップの事務所まで足を運ぶのが大変な方も麻生なら近いし、相談に行ってみようと思ったださる方もいて、ありがたいです。

子どもを中心にして

麻生キッチンりあんは、食を通して、大人も子どもも、様々な地域の方たちが交流できる居場所

です。家庭でもない、職場・学校でもない、第3番目の居場所（サードプレイス）です。そこには、多様な価値観があります。多様な価値観を体験できる場所に学生や子どもたちがいてくれるのは、とてもすてきなことです。居場所づくりは、この多様な価値観を受け入れ育む、温かさが大切です。りあんを利用して下さっている方たちだけでなく、麻生のみなさんとともに、子どもたちを中心に、温かいまちづくりをすすめていけたらいいなと思います。「りあん」のいいところは、商店街と学生、NPOと一緒に居場所づくりをしているところです。この連携をますます深めながら、また、新たな連携も視野に入れ、「こころ豊かで住みやすいまち」を麻生から、発信していきたいと思っています。みなさん、どうか温かい気持ちで、りあんの取組を見守り、力を貸して下さると、とてもうれしいです。

【寄付のお願い】

こども食堂*りあん、学習支援は皆様からのご寄付で活動しています。子どもたちに、皆と一緒にご飯を食べる楽しさ、お腹いっぱい食べる喜び、環境に左右されずに楽しく学ぶことを知ってほしい。皆様のあたたかいご支援をお待ちしております。

【振込先】

ゆうちょ銀行 口座記号 02740 -1-70950
口座名：こども食堂りあん
北海道銀行 麻生支店
普通 1587640
口座名：こども食堂 りあん

麻生キッチンりあんは、月～日11：30～15：00

（学習支援は、水曜・土曜、こども食堂は、毎月第3金曜日18：00～20：00）

○ お問い合わせ

札幌市北区北39条西5丁目滝澤ビル1F
TEL.011-707-9923
（あさぶ商店街・西本）
TEL.070-5048-4050（喜多）

4. 連携・連帯でつくるまちづくり

おすそわけで人と地域をつなぐ

あさぶおすそわけマーケット実行委員会 委員長 うちひら 内平 じゅんいち 淳一



2014年からこれまで9回にわたり、麻生の^{かくおうじ}覚王寺で開催している「あさぶおすそわけマーケット」(麻生商店街振興組合主催)。麻生を中心に石狩や当別など周辺地域でつくられている野菜や食べ物、手作り品などを販売する出店や、遊びや体験のワークショップがある子どもから高齢者まで楽しめるイベントで、毎回1500人を超える来場者で賑わいを見せています。

このイベントが誕生するきっかけになったのが、札幌市主催で2013年に3回にわたって開催された「麻生商店街みらい会議」です。この会議で、商店街関係者だけでなく、地域の方や、地域で活動している学生や団体、NPO、企業など、組織や地域を超えて様々な市民が集まり、意見を出し合っ
て麻生のまちを元気にするアイデアを一緒に考えました。そして、そこで出たアイデアを具体化して生まれたのがあさぶおすそわけマーケットで、以降、実行委員会を結成して準備を重ね、2014年7

月6日に第1回のマーケットを開催しました。

「地域と人をつなぐ」、それがあさぶおすそわけマーケットのコンセプトです。麻生は、通勤や通学での交通の乗り換え・乗り継ぎ地点で、札幌の中心部と石狩や当別などの周辺部をつなぐ言わば交通の結節点ですが、他方で通過点に過ぎないという面もなくはありません。そこで、このマーケットを開催することで麻生が人々のとどまる場になってほしい、また麻生だけでなく石狩や当別など周辺地域からも出店してもらうことで地域と地域の交流を図りたい、そのような考えでこのマーケットを始めました。

そして、マーケットでは出店者の方々には販売の品物のほかに、それぞれ「おすそわけ」(たとえば試飲・試食や菓子、野菜など)を用意してもらっています。それは、物の売り買いだけではなく、「おすそわけ」を通して人と人の心の交流、つながりを生み出したいというねらいからです。実際



に、これまでのマーケットでは出店者と来場者の交流はもちろんのこと、出店者同士や来場者同士が交流する場面も多く見られ、なかにはこのマーケットをきっかけに出店者同士でイベントを開催するなど、新たな関係性が生まれています。

多くのボランティアの方が運営に携わってくれているのも、このイベントの特色のひとつです。麻生やその周辺に住む年代の様々なボランティアの方々が、会場設営やチラシ配布、アンケート調査などを行って、一緒になってマーケットを作り上げてくれています。このマーケットを通じて、地域住民がそれぞれ役割を担い、生きがいを感じられるような場を提供したいとも考えています。

また、お寺で開催しているのも、このイベントのユニークなところ。前述の麻生商店街みらい会議で、この地域に3つのお寺が集まっていることが話題にのぼり、お寺を地域コミュニティの場として活用してはどうかという意見が出ました。一方で、そのなかのひとつ、覚王寺の副住職である私も以前から地域に開かれたお寺にしたいという思いを抱いていたことから、マーケットの会場として覚王寺が選ばれました。マーケットでは毎回、開始と終了の合図としてお寺の鐘をついています。

2016年からは、あさぶおすそわけマーケット実行委員会のメンバーで「あさぶでむすぶ」という団体を立ち上げ、マーケットだけではなく、ボラ

ンティアをしたい人とボランティアをしてほしい団体を仲介する「ボランティア部」という活動も始めるなど、活動の幅を広げています。今後も、麻生のまちで人と人をつなぐまちづくり活動を行っていきます。



○ お問い合わせ

あさぶでむすぶ
(あさぶおすそわけマーケット実行委員会)
TEL.090-7646-3688

Eメール
asabudemusubu@gmail.com

4. 連携・連帯でつくるまちづくり

スローライフ・イン・に～よんの軌跡

～人間関係も変わり、楽しく美しい街へ～

スローライフ・イン・に～よん 実行委員長 こいずみ 小泉 あきのぶ 詔信

食と花を活用したまちづくりを目指して始めました「スローライフ・イン・に～よん」の活動も今年で14年が過ぎようとしております。

長い間良くやってこれたなあ、というのが実感です。北24条地域で生活している方々、そしてこの地で生計をたてている商店や飲食店の方々、又、近くの小学校や専門学校の先生や生徒さんが北24条地域、いや北区も盛り上げようと大同団結して作ったのがこの組織です。規約がある訳でもなく、会費を徴収している訳でもないのに、心意気でここまでやってこられたのは“この街をよくしたい”との思いからだと思います。

春5月には花苗を買い札幌市公園緑化協会からプランターの貸与を受け、土を入れ、花苗を入れて北22条から北26条までの周辺道路を花でいっぱいになります。これは10月頃まで続きます。



フラワーロードづくり

夏7月末の2日間は“ノースロード24フェスタ”と銘打ったに～よんの夏祭りの開催です。北24条のど真ん中の札幌サンプラザの前庭、隣接する“に～よん広場”そしてサンプラザ内の一階ふれあい広場も利用しての大イベントです。

地元飲食店による屋台の数々、子ども会さんによる子ども向け縁日、ステージ上での数々のイベント等、多種多様な催し物があります。また、行

政と手を組んでのイベントとして、北保健センターさんによる食育展、社会福祉協議会さんの共同募金活動や札幌商工会議所さんの震災復興物産展などが催され、年々盛大になり、地域の皆様にご協力いただいたり、楽しんでいただいたりしております。



ノースロード24フェスタ

実はこのお祭りによる利益がスローライフ・イン・に～よんの活動資源になっており、春4月頃から色々作戦を立てて運営をしておりますので失敗は許されないのです。

このノースロード24フェスタには計画段階から若い北大生（よさこいソーランチーム“縁”）が関わっていただいております、25名程度が2日間のお手伝いをしていただき、そして、若々しい姿で“縁”のよさこいの舞いも演じていただいております。その統率力の良さで運営する者にとって大変な助けとなっております、感謝をしております。

その一方で環境問題にも目を向け、北区役所と覚書を締結しての“アダプトプログラム”事業は

地域住民が行政と協働して街の美化を行おうとの清掃活動で、当会は春4月～秋10月まで毎月第3日曜日、午前9時～9時30分位まで地下鉄北24条駅とサンプラザ、北区役所周辺等を清掃しようというものです。小学校の生徒さん、先生や近くの企業の方も参加していただき毎回30～40人くらいの方方で活動を行っており、街の美化意識が高まり、来街者の方々からも「北24条は街がきれいになったね」とのお褒めの言葉をいただいております。この事がきっかけとなり、北24条近辺の事業所の方々が揃いのジャンパー等を着て普段の日でもゴミ拾いなどの活動を行うようになってまいりました。

また、“冬もスローライフ”の合言葉で冬期間も活動を続けており、11月末からは札幌サンプラザ横のに～よん広場にピラミッド型のイルミネーションを飾りつけておりますが、これは北24条地域の若い方の街づくり組織であります“フロム24”という団体の方々に、イルミネーションの電飾を工夫しながら作製していただいております。1月下旬にはこのイルミネーションの周囲にアイスクャンドルを200個程設置し、周辺の商店にも協力いただき、北24条の冬の風物詩となっており来街者の方々の目を楽しませております。そして、アイスクャンドルを設置した最初の日には点灯式を行い、北区長様、小学校の校長先生と子ども達、町内会、商店街、飲食店等関係者が参加していただいております。子どもの雪中宝探しゲームを行ったあと、札幌サンプラザ屋内で来場者にお汁粉、豚汁なども振る舞って食べていただいたり、札幌市の雪対策事業の啓発キャラクターであるゆきだるマンに来ていただいて、ゲームやクイズ等も楽しんでいただいております。こういう活動が少しずつ他の関係機関との連携を生み出しております。点灯式はローソクへの点灯をするという火を使う行事であるため、北消防署の方々と手を組んで防火に関するクイズとお店の防火意識向上に関するイベントも組み込み、皆様のお役に立つイベントとなりました。



このようにスローライフ・イン・に～よんの14年間の活動は地域の皆様に少しずつ認識され、仲間も増え、思わぬ相乗効果を生み出してきており、無駄な活動ではなかったなど自画自賛しております。一方で実行委員の高齢化も進んでおり、この考えを上手にバトンタッチ出来る方向も考えねばなりません。この活動は地域の人はもちろんの事、行政の方々との腹を割った話し合い、語り合いが良い効果を生み出してきたのかなと思っております。一つの組織がいくら頑張っても何もできないことが、多くの組織の方々が集まってできた一つの大きな効果だとの感がいたします。これからも皆様のお力添えをいただき、スローな生き方を皆で楽しんで行きたいものです。



○ お問い合わせ

スローライフ・イン・に～よん実行委員会
北区北23条西4丁目2-17 森谷ビル2F
TEL.011-707-3027
(北24条商店街振興組合内)

4. 連携・連帯でつくるまちづくり

女性文化講演の開催について

～北区連合町内会女性部連絡協議会の活動～

北区連合町内会女性部連絡協議会 会長 田部 久枝



11月4日に開催された女性文化講演
(札幌サンプラザ 金枝の間)

【北区連合町内会女性部連絡協議会について】

北区連合町内会女性部連絡協議会は、昭和52年6月に協議会の規約を制定施行し、その活動は今年でちょうど40年目を迎えます。

この協議会は、「区内各連合町内会女性部相互の連絡と社会意識の高揚を図るとともに単位町内会婦人部及び女性部の自主的活動を助長促進し、女性生活文化の向上と、区行政の進展に寄与すること」を目的に活動しています。

現在は、北区連合町内会のうち鉄西地区、幌北地区、北地区、新川地区、新琴似地区、麻生地区、篠路地区、屯田地区、新琴似西地区、拓北・あいの里地区、合わせて10地区の各女性部長と副部長2名の計30人をもって構成されています。

【北区連合町内会女性部の主な活動について】

主な活動内容としては、年度当初の定期総会において予算・決算及び前年度事業報告、当年度事業計画等の報告・承認を行い、活動計画の詳細は定期総会以降に2～3回行う正副会長会議で話し合い、毎年11月上旬に女性文化講演のほか、1月には大通公園で開催されるさっぽろ雪まつり会場で、大雪像制作に従事されている自衛隊や市民ボラン

ティアの方々などの慰労のため、協議会を代表して会長の属する地区の役員が慰問を行っています。

【これまでの女性文化講演の開催状況について】

女性文化講演は、当協議会が主催となり、女性の社会意識や生活文化の向上を目的に毎年行っているもので、これまでに30回程度開催されています。

過去の講師の方は、大学教授をはじめテレビ・ラジオ局関係者、会社経営者、料理研究家、落語家など、様々な分野でご活躍されている方をお願いしており、昨年度は「北区とアイヌの歴史」をテーマに北海道アイヌ協会札幌支部の方に講演いただきました。

【平成28年度の講師選定について】

例年、当該年度の女性文化講演における講師の選定は、会長の属する地区から正副会長会議において提案し承認を受けていますが、この講師や演目の選定には毎年頭を悩ませます。

新琴似地区では、たくさんの候補者の中から、私たちの生活に深く関りがあり文化的で人の健康に関するもの、そして女性部の会員が興味を持って来場してもらえる内容のお話をしていただける講師・テーマで、限られた予算の中で実現性のある先生を探しました。

そこで目に留まったのが、札幌に在住する温泉アナリストの久世進くぜすすむさんです。

久世さんは、北海道内のご出身で、東京ヒルトンホテルやホテル日航アンヌプリ（現在のニセコ・ノーザンアンヌプリ）にホテルマンとして20年余り活躍、その後、2009年に日本温泉地域学会が認定する「温泉観光士」と、温泉ソムリエ協会が認定する「2つ星温泉ソムリエ」の資格を取得、2010年には関西大学教授の推薦を受けて温泉学会会員になられています。

◆女性文化講演の開催について

特にニセコ町周辺をはじめとした北海道の温泉に精通され、2012年からは、ニセコ町から「温泉大使」の委嘱を受け、ニセコ町の観光振興にご尽力されるとともに、現在は、テレビや雑誌等で活躍されておられます。

女性文化講演の開催日は11月4日に決定していましたので、季節的にも札幌は秋の深まりとともに日増しに肌寒くなって、温泉が恋しくなる季節であることから、「温泉」と「健康」のお話をさせていただくのが最適と考えました。

早速、久世さんに連絡を取り趣旨を説明したところ、快くお引き受けいただき、講演のテーマはこちらの要望とともに久世さんのアドバイスを受け、「温泉の作法～知って楽しむ温泉講座～」としてご講演をお願いしました。

【女性文化講演当日の様子】

平成28年11月4日（金曜日）、札幌サンプラザ（北区北24条西5丁目）金枝の間において、午前10時40分から



続々と会場に向かう来場者

「平成28年度女性文化講演」が開演となりました。

この日は、開演の20分前の10時20分に開場となりましたが、開場以降、北区連合町内会女性部の会員のほか、地域住民の方々らが続々と入場され、最終的には250の方がご来場されました。

講演は、麻生連合町内会女性部の宮崎部長の司会進行のもと、スムーズに進行し、私から来場された皆様へご挨拶申し上げ、来賓を代表してご多忙の中、ご出席いただきましたふじいとふる藤井透 北区長様にご挨拶をいただきました。

いよいよ講演が始まり、久世さんは「温泉を知る」「温泉に入る、上がる」「温泉を楽しむ」という3つのテ



田部会長のあいさつ

ーマに沿って、温泉の定義や泉質の種類、泉質別の効能、温泉マークの意味、効果的な入浴方法、若返りや美肌に効果があると言われる温泉の魅力など、身振り手振りを交えながら熱心に幅広くお話されました。

「温泉で一番大事なものは泉質、ぜひその効能や特徴を知って上手に活用してください」「近年低体温の人が増えています。様々な病気の原因は冷えからくるものが多く、体の免疫力は体温が1度下がると30%ダウンし、逆に1度上げると5、6倍アップすると言われています。温泉の温熱効果を利用して体温を上げましょう」などの説明に、参加者はうなずいたりメモを取ったりと熱心に聞き入っていました。



温泉マークを説明する久世さん

参加者の一人は「温泉が好きでよく行きますが、知らないことだらけで、とてもためになりました。今後はそれぞれの温泉の効能や特徴を気をつけながら、温泉巡りを楽しんでみようと思います」と話していました。



質問に熱心に答える久世さん

【終わりに】

今後も北区連合町内会女性部連絡協議会は、北区内の各連合町内会女性部並びに単位町内会女性部と相互の連携を深めながら、社会意識の高揚や女性生活文化の向上に向けた取組みを続けていきたいと思ひます。

○ お問い合わせ

北区市民部地域振興課
TEL.011-757-2407

4. 連携・連帯でつくるまちづくり

北区明るい選挙推進協会の活動について

～若者の投票率向上を目指して～

北区明るい選挙推進協会会長 相馬 公子

明るい選挙推進協会という団体があるという事も知らなかった私が北区明推協（北区明るい選挙推進協会）の委員になって二十年位たったのでしょうか。

地域が選挙で二つに割れた時、たまたまどちらにも属していなかったため、地域から依頼され何も知らないまま引き受け長い月日がたちました。いつの間にか会長という立場になり、選挙管理委員会の方々と一緒に「お金のかからない、公平できれいな選挙」の実施を訴え、選挙時には街頭に立って道ゆく人々に投票の呼びかけをしたりもしています。さらに投票率を高めるにはどうしたら良いか、特に若い人たちの選挙離れについては悩むところでした。

今までの活動としまして、平成24年度までは、毎年冬の一番寒い時期に、各児童会館を回り、「たこ作り工作会」をしておりました。子供たちに、たこの尾に選挙の標語を書いてもらうことで、選挙の大切さを伝え、そのたこを公園等で揚げておりました。



たこ作り工作会（屯田児童会館）

また、現在も続いている「明るい選挙啓発ポスター展」では、区内の小中学校を回り子供たちから選挙のポスターを募集し、それを選考して、優秀な作品については、全国の「明るい選挙啓発ポ

スター展」に出品しております。

全国の入選作品はカレンダー等になって区内の小学校、中学校、高校に配布されております。

それでも、なかなか若者の投票率の向上には結びつかないと思いながら地道な活動を続けてまいりました。



明るい選挙啓発ポスター展 審査会

そのような折、平成28年の参議院選挙から選挙権年齢が18歳に引き下げられ、18歳と19歳の人たちにも選挙権が与えられることになりました。

これに先立ち、北区明推協では子供の頃から選挙を体験することが大切であるという考えから小中学生を対象にした「せんきょ体験授業」を平成25年度から選挙管理委員会と一緒に実施しています。

「せんきょ体験授業」は、さまざまな投票テーマを決め、これに基づいて架空の候補者を設定し、実際に使用する投票用紙、本物の投票箱を使用して誰が当選するかというところまで授業で行います。

それぞれ1時間～1時間30分位の授業を行って参りました。

今まで北区でせんきょ体験授業を行った学校は以下のとおりです。

《平成25年度》

10月22日・23日 光陽中学校

投票テーマ「若い有権者の投票率を上げるためには」

12月17日 新琴似南小学校

投票テーマ「若い有権者の投票率を上げるためには」

《平成26年度》

9月29日 上篠路中学校

投票テーマ1「2026年以降の札幌冬季五輪招致について」

投票テーマ2「国民の直接選挙による首相公選制について」

《平成27年度》

10月6日 北辰中学校

投票テーマ「若者の政治への関心を高めるには何が必要か」



北辰中学校 せんきょ体験授業

12月17日 新光小学校

投票テーマ「『つよく、かしこく、心やさしい』の中でどれを一番の目標にするか」



新光小学校 せんきょ体験授業

12月22日 篠路西中学校

投票テーマ「出生率を上げる為にはどうすればよいか」

2月23日 新川中央小学校

投票テーマ「進んで学ぶ子、仲良く助け合う子、明るくたくましい子の中で、どれを一番目標にするか」

《平成28年度》

11月10日 新琴似北中学校

投票テーマ「未来の札幌市長選挙の4人候補者が政策と財源を争点に争う」

11月25日 屯田北中学校

投票テーマ「札幌市のおサイフはこれからどうすればよいか」

これまでに以上の9校で実施し、平成28年度はさらに2校での実施を予定しております。実施後の学校にアンケートをお願いしたところ、その回答の中に、「思っていたより選挙を身近に感じた」とか、「選挙は難しいと思っていたが、そうでもなかった」というコメントもあり、大変うれしく思っております。

今まではなかなか改善策を見いだせなかった若い人たちの選挙離れの問題でしたが、明推協の活動の中では、せんきょ体験授業が、若い人たちの選挙に対する関心を高める一番効果的な方法ではないかと考えます。

平成28年10月に札幌市・区明るい選挙推進協会委員研修会がありました。その中で、講師の方から平成28年の参議院選挙は18歳、19歳の投票率が比較的高かったと聞きました。

今後も各学校で小中学生の皆さんに選挙は大切なものであると感じてもらおうよう、選挙管理委員会と一緒に地道な活動を続けてまいりたいと思います。

○ お問い合わせ

北区市民部総務企画課
TEL.011-757-2404

4. 連携・連帯でつくるまちづくり

コラム⑧ 地域と連携したみどりの街づくり ～駅を中心としたみどりの顔づくり事業～

北区土木部維持管理課

【はじめに】

北区土木部では、平成27年度からJR駅前や地下鉄駅周辺について、特徴を持たせた緑化を行い、駅を核とした街づくりを進める「駅を中心としたみどりの顔づくり事業」に取り組んでいます。

平成27年度のJRあいの里教育大駅前から事業が始まり、平成28年度には2箇所目となるJR新琴似駅前で事業を進めています。ここでは、事業に至った経緯、これまでの取り組み、今後の展望についてご紹介します。

【駅前をもっと明るく】

本事業が取り組まれることになったきっかけは、拓北あいの里連合町内会（以下、「連合町内会」という）の皆さんからの声でした。「毎日利用する駅は地域の大切な顔」「綺麗な駅前でお客様を出迎えたい」「花を植えると雰囲気が明るくなるのでは」「地域と連携した取り組みにしてはどうか」など、愛着のある駅に対する想いをたくさん頂きました。JRあいの里教育大駅前には以前から4箇所の植栽スペースがありましたが、樹木のほかは芝生となっており、彩りがあるとは言い難い状況でした。



緑化前の植栽スペース

【協働の担い手探し】

どうすれば駅前を綺麗にすることができるか、連合町内会の皆さんと北区土木部で話し合いを重ね、毎年花を楽しむことができる宿根草（亜麻、ラベンダー）に加え、毎年植えることが楽しめるように、一年草も植えることとしました。

この事業を行うには、花植えはもちろんのこと、除草や水やりなど継続的な維持管理が必要になることから、一貫して引き受けていただける担い手を探すため、連合町内会の皆さんには多方面に奔走していただきました。

その結果、平成28年4月に開校した、北海道札幌あいの里高等支援学校（以下、「高等支援学校」という）の皆さんにご協力いただくことが決まりました。

【花植え～維持管理】

宿根草の植え付けは、平成27年度に北区土木部が行いました。一年草の植え付けは、平成28年6月に高等支援学校の皆さんに行っていました。

一年草の植え付け作業は2日間に渡り、ペチュニア230株を生徒の皆さんと先生が一株ずつ丁寧に植えてくださいました。当日は連合町内会の皆さんにも駆けつけていただき、おしゃべり



一年草植え付け作業

をしながら和やかな雰囲気で作業が行われました。

植え付け後も定期的に、除草、水やりを行っていただいたことにより、花壇は以前と見違えるようになりました。生徒さん手作りの看板も設置され、JR駅を利用する方からは、「花がとても綺麗で駅前が明るくなった」「きちんと管理されているので気持ちが良い」といった声が寄せられており、とても好評です。



ボリュームいっぱいペチュニア



生徒さん手作りの看板

高等支援学校の皆さんには、平成29年度以降も継続して花壇の維持管理をしていただく予定です。また、校長先生からは、「今後はJRあいの里公園駅でも、同様の取り組みが出来ればと考えています。」という嬉しいご提案もいただいています。

【新琴似駅前の取り組み】

平成28年度には事業の2箇所目として、JR新琴似駅前ロータリー内にレンガ花壇を設置し、レンガ花壇とポストがある既存花壇への宿根草（亜麻、ホスタ、シモツケ等）植栽を行いました。

平成29年度には、北区災害防止協力会（北区内の建設業者・造園業者が加盟）と新琴似小学校が駅前広場で例年実施している、「新琴似駅前花いっぱい運動」の中で、レンガ花壇にも一年草を植えていただけるよう、今後調整を進めていく予定です。



完成したレンガ花壇

【今後に向けて】

「駅を中心としたみどりの顔づくり事業」では、平成31年度までに5箇所の駅前緑化に取り組むことを目標にしています。今後は、JR百合が原駅、JR篠路駅、JRあいの里公園駅での緑化を進める予定です。

みどりの街づくりには、花植えのほかにも除草や水やりなど、地域の皆様のご協力が欠かせません。毎年春に実施している「ます花壇制作事業」（街路樹が植えられている歩道脇植樹帯への花苗植栽）と併せて、区民の皆様には引き続きご協力をお願いいたします。

北区土木部では、今後も地域の皆様にアイデアをいただきながら、地域と行政が連携した街づくりを進めてまいります。

○お問合せ 北区土木部維持管理課 TEL.011-771-4211